

| Title | 吹田市、箕面市での乳癌集団検診について |
|--------------|------------------------------------|
| Author(s) | 中野, 陽典 |
| Citation | 癌と人. 1973, 1, p. 10−13 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/24234 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

吹田市、箕面市での乳癌の集団検診について

中野陽典*

現在日本では、胃癌、子宮癌等で集団検診がかなり普及し、その早期発見、早期治療に大きな役割を占めてきている。一方その死亡率が年々増加の傾向を示している乳癌においては、集団検診はごく限られた施設が、小規模に試みているにすぎない。

乳癌は触診が容易である上に、乳房 X線撮影 等の補助診断の発達により、他の癌よりも容易 に早期に見つけうるはずである。しかしながら 今日でも、いわゆる手遅れとなった推行乳癌患 者があとをたたず、その治療は困難をきわめて いる。このような状態をどうすれば防止できる のであろうか。自明のこととは言え早期診断, 早期治療以外にはないと考えられるが、現状で は、病院で患者を待っていては、前述の通り手 遅れになってしまうのである。胃癌や子宮癌 で成功しているように、積極的に一般大衆の中 に出かけて集団検診を実施するのも早期発見, 手遅れ防止の一つの有力な手段と考えられるの である。以上のような観点にたって我々は、昭 和43年9月から吹田市、箕面市を中心に乳癌の 集団検診を開始したのである。

吹田市では同市の母子会の希望に合致する幸運にめぐまれ、同会の全面的協力により検診希望者をつのることができた。一方箕面市では同市の医師会、市役所衛生課から同市の婦人会を通じて市の公報等を利用して希望者を集めている。箕面市には吹田市の母子会のような組織力がないので、受検者数は吹田市よりかなり少なくなっている。

集団検診の方法は、各地区に日頃乳癌の診療にたずさわっている外科医と検診介助者1名がおもむき、まず(図−1、図−2)のごとき受検者のカルテを作り、 微研方式と称する方法(図−3)で問診(受験者自身が記載する方式)の後触診を行なった。これによって乳房にしこ

り、変形のあるもの、乳頭からの異常分泌のあるもの、巨大乳房で触診のむつかしいものを選び微研病院にて乳房X線撮影を行なった。これらの結果でさらに必要なものは組織検査を行ない、乳癌と診断したものに根治手術を行なったのである。また一度受検した方々すべてに年1回の検診の必要なことを知らせ、その時期に吹田市では母子会から、箕面市で我々が直接ハガキで再検の日を案内している(図-4)。

このようにして開始以来すでに 4 年間を経過したが、その間の集団検診の成績は(表-1)のようであった。

吹田地区では延人数3,930名, (実人数2,616名)を検し,276名を乳房撮影,29名に組織検査を行なって乳癌5名(約0.2%)を発見した。

箕面地区では延人数1,239名,(実人数 744 名) を検し 124 名に乳房撮影, 15名に組成検査を行 なって乳癌 5 名 (0.7%) を発見した。

その他の地区も含めると延 6,207 名 (実人数 4,399名) を検し11名 (0.25%) の乳癌を発見したのである。これは我々の予想を上まわる高率であった。

さらに詳細にこの4年間の成績を検討してみるといろいろの問題点が明らかになってきた。目的である早期癌が見つかった癌の半数以上であったが進行癌も見つかってきた。自覚症があっても乳癌を心配している人は以外に少なく、したがって集検でもなければ医師を訪れないでいる人が多いことが明らかとなってきた。また母子会、婦人会中心の動員方法では、30才代の人の動員が最も多く、癌が最も多い40才代、次いで50才代の人々の動員がや、わるいこともわかった(図一5)。発見された11名の癌の中には、再検後に見つかった2例が含まれており、この2例のうち1例に腋窩リンパ節に転移が見られた。再検の必要性が痛感されるが、実際には、

^{*} 大阪大学微生物病研究所附属病院外科

我々の呼びかけている年1回の再検でもその受 検率は低く (図-6) のごとく1年後の受検率 は20%程度である。 4年を経過した人達の中で も 2 度以上受検した人は、47.7%と半数にも満 たない。我々の方法について考えてみると触診 が比較的容易な日本の婦人を対象としているか ぎり、経済的かつ効率の良い方法であると考え られるが必ず乳癌の診療に熟達した外科医を要 することと、それでいて尚かつ早期の乳癌を見 おとす可能性をもつという欠点がある。再検が これを防止するとは云え、再検率のわるさがこ の心配をさらに大きいものとしている。また日 本人の体位の向上が、将来は触診のみの screening に支障をきたすかも知れず、screening に乳房撮影等の補助診断を導入する必要が生ず るかも知れない。

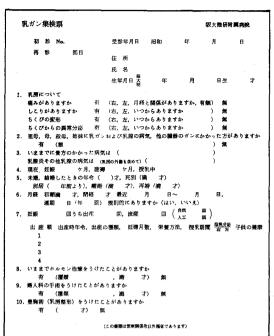
いずれにしてもこの4年間で11例の乳癌が 6,207人の一般大衆の中から発見されたことは、 集団検診の意義を充分にうらずけるものである。

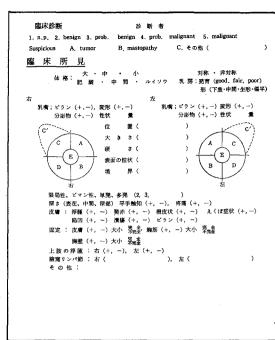
したがって今後も原則として今までと同じ方 法で集団検診をつずけていきたいと考えている。 ただ次のような努力目標を設定して、実現につ とめたいと思う。

- 1. さらにより多くの人を受検させる方法を 工夫すること。職域の婦人や、保健衛生活動の 活溌な婦人会等への呼びかけ。講演会等をも開 き一般婦人に乳癌の啓蒙を行なう。しかし組織 力がなくても、乳癌の相談日の開設の感がある 箕面市の集検で著しい高率に乳癌を発見してい ることは興味深く、少しでも自覚症をもち少し でも心配している人達が、気軽に受検できる機 会を作ることも忘れてはならない。
- 2. 再検率向上のための努力。初回受検時に 再検の必要性を訴えておくことや, 葉書での呼 びかけ等の地道な努力。
- 3. 集検の成績をよく分析し、実績を一般の 人に知らせることにより集検の意義を理解させ る。
- 4. より早期に診断できる触診技術の向上と、 補助診断の開発に努力する。
- 5. 他の乳癌の集団検診を行なっている施設 と共同して、より良い集検の方法を検討する。
- 6. さらに日本中の多くの乳癌を治療する施設が集検に参加するよう呼びかけたい。



乳房X線撮影





(図-1)

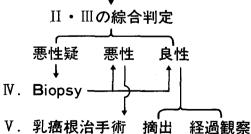
(図-2)

微研方式による乳癌検診

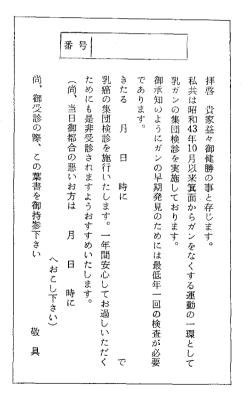
- Ⅰ. 問診(受検者の自記による)
- Ⅱ. 触診(専門の外科医による)

異常あり 異常なし

Ⅲ. 乳房撮影による精密検査



(図-3)



(図-4)

乳癌検診の成績

(昭和43年9月~昭和47年8月)

| | 吹田地区 | 箕面地区 | その他 | 計 |
|------------|------|------|------|------|
| 延受検者数 | 3930 | 1239 | 1039 | 6207 |
| 総受検者数 | 2616 | 744 | 1039 | 4399 |
| 乳房X線撮影受検者数 | 276 | 124 | 64 | 464 |
| 生検受検者数 | 29 | 15 | 3 | 47 |
| 癌 患 者 数 | 5 | 5 | l | 11 |

(表一1)

